

カレッジだより



熱気の学園祭

絆・ささえ合おう明日へ をテーマに、秋晴れの10月8日、第17回学園祭がキャンパス一帯で行われ、現役・OB・地域の人たちでにぎわいました。

ステージでは9時半から23団体が演奏や踊り・合唱・ダンス・マジックなど、熱演を繰り広げました。中庭のテントなどには19の模擬店が並び、うどんや雑貨、ケーキ、野菜、花苗などを販売。園芸喫茶・茶室も大人気でした。ロビー・学習室では14グループが作品展示や体験教室を開きました。名物のバザーも3000点を売り尽くす盛況。グループ わ も、ベトナム料理とカレーの店を出し、会場は終日熱気に包まれました。終了後の構内では、ゴミ拾いをするびかぴか隊の姿が目につきました。=写真



今井学長と神戸市長が対談

今井鎮雄学長が矢田・神戸市長を招いて語り合う恒例の〔カレッジ対談〕が9月7日、カレッジホールで行われました。今井学長が、東日本大震災で被災地に駆けつけボランティア活動をしている学生がいることを誇りに思う、とカレッジの現状を報告。矢田市長からは、ポーアイに建設中の「スーパーコンピューター京」が来年秋には稼動すること、阪神大

28日に六甲山リレートーク

六甲山のすばらしい自然を、どうすれば次世代に残せるか 国際森林年2011 に合わせて「六甲山リレートーク」(シルバーカレッジ・神戸市建設局主催)が10月28日(金)午前10時から、シルバーカレッジ(ホール)で開かれます。発表者は、六甲山の景観保全に尽力している専門家やカレッジOBら10人。基調講演のあと、9人が日頃の活動ぶりを報告。「六甲山市民宣言」を採択します。昨年の「生物多

震災から財政面でも立ち直りつつあること、少子高齢化に対応するため「神戸っ子応援団」を全市に設けることなど、神戸市の5ヵ年計画について説明がありました。カレッジ学生に対しては、地域に根を下ろしたボランティア活動をしてほしい、と要望がありました。(「爽風」150号から)

学習支援の集い開かれる

23年度2回目の学習支援の集いが7月12日、カレッジ学習室で開かれ30人が参加しました。活動報告は4人。小部小(北区)で特別支援を始めたばかりの土井昭政さん(国10)は「子供たちの状態はさまざまなので戸惑うことが多い。嫌われないよう自分なりに努力している」と発表。ひよどり台小・北五葉小で英語などの教科支援を7年続けている鬼村信行さん(国14)は「児童と接触する機会を多くし、子供に学ぶという態度が大切だ。カレッジ在学中から学習支援ができる仕組みを作ってもらいたい」と訴えました。

「戦争と平和」の語り部として神戸空襲などの体験を子供たちに伝えている渡邊寛治さん(国10)、西阪順三さん(生8)は「戦争の悲惨さはわかってくれるが、その背景・原因となると理解が得られない。語り部が高齢で少なくなり、継続が危うくなっている」と話していました。その後、3分科会に分れて悩みや課題などの情報交換。活動していない登録者をどう少なくしていくか、について加藤委員長から説明がありました。(学習支援委員会)

西区会が未来館ツアー

西区会は7月28日、環境未来館見学ツアーを実施しました。夏休みとあって児童4人を含め27人が参加。子供たちは自由研究に役立てようと、ゴミの分別や回収されたゴミの処理について、スタッフの説明を熱心に聞き、メモをとっていました。隣接の工場でビン・缶・ペットボトルなど燃えないゴミの処理工程を見学した後、付近のレストランで昼食。13時過ぎ現地解散しました。(西区会 東本敦子)

様性講演会」に続くもので、カレッジ事務局では「ぜひ、現役・OBに聴講してほしい」と呼びかけています。入場無料。問い合わせは、事務局(078-743-8100)まで。

基調講演 = 新野幸次郎(神戸都市問題研究所)
発表 = 高畑正(神戸市建設局) 豊田實(郷土史家、生環5期生) 上田均(六甲摩耶鉄道) 岡敏明(兵庫県勤労者山岳連盟) 堂馬英二(六甲山を活用する会) 根岸真理(登山家) 河上誓作(神戸女子大教授) 橋本佳延(人と自然の博物館) 道満俊徳(里山和楽会・生環13期生) = 敬称略